



魚津市イメージキャラクター
ミラたん

魚津市プレスリリース 令和元年8月1日

魚津市パークマネジメント基本方針を策定しました

●基本方針の概要（ポイント）

市が管理している27箇所の都市公園について、市民ニーズを把握し、より多くの方に利用して頂ける特色ある公園づくりを進めるための基本方針を策定しました。

（1）現状と課題

① 現状

○魚津市の公園・緑地の整備現状

27箇所 58.53ha

住民一人当たり公園面積 13.92㎡（公園条例上の整備目標 10㎡）

○利用状況

- ・総合公園 ミラージュプールやパークゴルフ ⇒ 横ばいで推移
- テニスコート ⇒ 減少傾向
- ・早月川緑地 多目的広場 ⇒ 減少傾向
- ソフトボール場 ⇒ 減少傾向
- ・街区公園 ⇒ 減少傾向

② 課題

○市民ニーズに即した公園の配置や利活用の適正化

- ・少子高齢化の進展、健康志向や防災意識の高まり等ライフスタイルの多様化に伴う市民ニーズの変化への対応が必要

○施設の老朽化への対応（安全性の確保と管理コストの縮減）

- ・地域特性に応じた機能を念頭に置いた長寿命化対策の推進

○新たな協働体制づくり

- ・地域や民間と連携・協働するしくみづくりが必要

（2）基本理念と目指す公園像

① 基本理念

- 「公園は地域の魅力と価値を高める場」
- ・市民の暮らしに潤いをもたらす共有の資源
- ・地域の大切な資源として積極的に活用される資源
- ・地域特性を大切に個性ある魅力的な場



② 目指す公園像

・人々が集い、つながりを生む公園

（公園の特性に応じて、運営管理に多様な主体が参加し、柔軟な利用がしやすい整備により、「人々が集い、つながりやすい交流を生む公園」を目指す。）

・地域の愛着と誇りを育てる公園

（地域特性に応じて、快適、安全、潤い、寛ぎ等の暮らしのニーズに応える整備や、多くの方が身近に感じる運営管理体制を整え「地域の愛着と誇りを育てる公園」を目指す。）

（3）実現に向け重視すべき3つの視点

① 子どもから高齢者まで様々な世代の利用を促す。

（多くの人に利用してもらうことが大切。子ども、子育て世代、高齢者など世代によって異なる利用ニーズに適切に対応する。）

② 多様な主体（パートナー）と連携して公園運営の持続可能性を高める。

（多くの人に関わってもらうことが大切。町内会等の地域組織、市民活動団体や民間事業者等の多様な主体（パートナー）との運営参画と、利用者目線に立った柔軟な利用を推進。）

③ 地域毎のニーズに応える個性ある魅力的な公園づくり

（公園毎の機能分担を踏まえた再編検討に基づき、地域の多様な公園ニーズに対応した暮らしに身近な公園（街区公園）づくりを推進。）

（4）実現に向けた基本方針と展開施策

① 特色ある公園づくり

（子ども用遊具が充実した公園、健康遊具が充実した公園等利用者ニーズに沿った特色ある公園づくりを目指す。）⇒ 公園マネジメントプラン

② 身近な公園の機能再編・分担及び統合

（近接立地している等、利用圏の重なる類似公園を機能再編することにより特色ある公園づくりを進め、統合や廃止による維持管理費の縮減に努める。）

③ 地域住民の参画促進と協働の推進

（地域と話し合いながら計画を作り、地域と市が協働しながら管理運営ができる地域に親しまれる公園づくりを目指す。）

④ 制限行為の見直し

（ボール遊びやペットの散歩等、利用者ニーズを勘案しながら、公園毎に異なる制限行為や運用ルールの見直しを行う。）

担当部署：産業建設部都市計画課
（課長）三井 修（担当者）海野 貴也
電話 0765-23-1030 F A X 0765-23-1066
E-Mail toshikeikaku@city.uozu.lg.jp

1 本基本方針の策定にあたり実施したアンケート調査の結果概要

調査目的 地域の方や子育て世代の方々にアンケートを実施し、より良い公園利活用についての意向等を調査する

調査対象 市内の小中学生と公園周辺の住民 530人（回答459件 回答率87%）
459回答中、55件（12%）は過去1年間の公園利用なし

調査項目 公園利用状況（設問数4問）

今後の公園整備・維持管理について（設問数8問）

身近な公園に期待する役割、左記実現に必要な施設、許可しても良い遊びの種類、再整備に伴う特色作り、左記の方向性、公園の集約・統合、公園管理の協働主体、関わりたい公園に関する活動

特に利用する公園（回答405件）

魚津桃山運動公園 10.9%（44人）

道下公園 4.9%（20人）、市役所前公園 4.4%（18人）

特に良く利用する公園は無い 60.7%（246人）

（理由 利用目的が無い、近くに無い、遠い、行きにくい）

利用時間帯 平日 小中高生は夕方だけ利用。

親子連れは午前から夕方まで満遍なく利用

大人・高齢者は午前午後がメインで朝方も利用

休日 小中学生は午後の利用が多く、午前・夕方も利用

高校生は夕方の利用が多く、午後・夜間も利用

2 身近な公園についてのアンケート調査の結果

【アンケート結果概要】

7割弱の人は何かしら公園を利用しているが、その内の6割の人は、寄り道で公園を利用した程度であった。回答者中2割だけが公園を憩いの場や遊び場として良く利用している。利用者は世代別で要望が異なり、20代以下はストリート系や花火等の遊びを望み、子育て世代は子供を遊ばせるための遊具を、50代以上は主に行事やイベントで利用し、散歩や軽い運動が出来る空間を望まれた。世代別で利用目的と利用時間帯が異なる。

以下アンケート項目別の結果抜粋

【利用目的】（※ 世代別は、全体順位と異なる場合に記載しています）

全体 1位 子供を遊ばせる 67.2%

2位 休憩・語り・リフレッシュ 20.3%

3位 散歩・軽い運動 19.9%

世代別 20代以下 3位 スポーツや野外レクリエーション 27.1%

50代以上 3位 行事やイベントの参加 32.7%

【期待される役割（施設）】

全体 1位 子供を遊ばせる 65.4%

（子供向け遊具 56.4%、ボール遊び場 28.1%）

2位 散歩・軽い運動 37.3%

3位 休憩・語り・リフレッシュ 37.0%

（トイレ・水飲み場 30.3%、ベンチ 29.8%）

世代別 20代以下 1位 休憩・語り・リフレッシュ 50.6%

50代以上 1位 散歩・軽い運動 50.0%

【許可しても良い行為】

全体 1位 ボール遊び 64.3%

2位 ペットの散歩 30.5%

3位 バーベキュー 22.0%

世代別 20代以下 3位 スカートボード、手持ち花火、楽器の演奏やダンス 各3割強

50代以上 2位 ボール遊び 51.6%

【身近な公園に求める特徴について】

全体 1位 子供遊具の充実 43.9%

2位 子供が遊びを考える場の充実 37.4%

世代別 20代以下 2位 スポーツ施設の充実 27.3%

50代以上 1位 子供が遊びを考える場の充実 40.0%

3 大きな公園についてのアンケート調査の結果

【アンケート結果概要】

8割強の人は公園を利用しており、後述の身近な公園よりも利用機会は多い。

以下アンケート項目別の結果抜粋

【利用目的】（※ 世代別は、全体順位と傾向が異なる場合に記載しています）

全体 1位 子供を遊ばせる 63.0%

2位 スポーツや野外レクリエーション 29.3%

3位 行事やイベントの参加 26.6%

世代別 20代以下 1位 スポーツや野外レクリエーション 42.4%

30～40代 1位 子供を遊ばせる 82.3%

50代以上 1位 行事やイベントの参加 44.9%